

美術科学習指導案

日 時	平成21年11月17（火）第5校時
学 級	紫波町立紫波第一中学校 1年4組 33名
場 所	第一美術室
授業者	高橋 訓子

1 題材名 描画の基本～静物を立体的に表そう～(絵画)

2 題材について

(1) 教材について

学習指導要領では、1学年の表現の目標について、「対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。」と定めている。

小学校高学年から中学生のこの時期になると、知的な発達がすすみ、科学的・客観的にものを見ようとする姿勢が発達してくる。しかし反面、既成概念でしかものを見て表現できず、自分の意図とかげ離れた作品になってしまい、表現の満足感や充実感を味わうことができずに終わってしまうことで表現への苦手意識につながるケースも少なくない。このような表現への抵抗感を取り除き、意欲的に表現するための力は、観察力を鍛え、基礎的・基本的な知識・技能の習得が不可欠と考えられる。特にも1学年における基本の習得は、3年間の表現活動で生徒が思いを表す手段としてしっかりと定着させたい。

本題材ではモチーフとして、洋なし、渋柿、ホオズキ、ニンニクなど季節の果実等を設定した。球体による立体のとらえ方や明暗の段階的な変化を鉛筆によって学習し、それをもとにそれぞれの表現意図に応じた工夫をしながら水彩による静物の表現に発展させることで、身近なものを観察して形や色彩の美しさなどを感じ取る力や、それらを表現するために適切に材料や道具を活かす基礎的な技能を身に付けさせたい。ここでは科学的な見方のうち「立体感」に注目して量感のあるモチーフに取り組む。

(2) 生徒について

本学級の生徒の学習態度は総体的に良好である。積極的な発言が少ない面もあるが、ほとんどの生徒が集中してねばり強く学習に取り組もうとする姿勢がある。1学期はレタリングと色彩の学習を、2学期からは、水彩絵の具の基本を学習しながら夏休みの課題の「夏景色」への加筆に興味関心を持って取り組むことができた。当初水彩の彩色に抵抗感を持っている生徒が少なくなかったが、混色、重色の技法を確認することで、立体的・写実的表現のヒントを得たという実感を持つことができた生徒も多かった。その中で、参考作品や他者の作品・発言から学ぶ姿勢もできてきた。

本題材では、改めて描画の基本として学習した静物をモチーフにして、この「ヒントを得た実感」を確かなものにして「立体的に表現できる」満足感、成就感を味わわせたい。

(3) 研究に関わって

美術科では「表現力」の深まりについて、「自分のおもいや考えを明らかにし、表現したいことにつ

いての造形的なイメージを具体的に持って、それを目標とし、その達成に向かって努力する意欲を十分に持つこと」をそのひとつとして考えている。

この目標としたイメージの達成は、造形的表現の基礎・基本がしっかりと身に付いているという裏付けと、イメージを「言葉」で考え、書き表し、伝えることができかなうものであると考え、これを達成するために具体的に次のような指導過程の工夫をしていく。

ア. 「聴き取る力」を高めるための手立てについて

・・・「ミニ鑑賞タイム」でのキーワード、「感じ」を表す言葉のメモ

イ. 「自分の考え（意図）を明確にする力」を高めるための手立てについて

・・・個人の取り組み目標の設定

ウ. 「確かに伝達するための力」を高めるための手立てについて

(ア) 学習シートで振り返る時間の設定→教師による評価とフィードバック

(イ) 自分の表現意図を説明させる場面の設定

(ウ) 班での話し合いの結果を発表し、伝達した内容を全体で確認する場の設定

エ. 鑑賞教材や資料の充実

表現と鑑賞は表裏一体である。個々の生徒の「自分の引き出しの中身」を豊富にさせ、発想の豊かさにつながるような全体指導、机間指導、環境整備など美術の教育活動全体で鑑賞を大切にしていくこと。

3 題材の目標

- (1) 対象をみつめ、感じ取った造形的イメージを大切に、全体と部分の関係を考えて構成を工夫し、達成に向かって努力すること
- (2) 形や色彩の表し方、意図に応じた彩色の方法、材料や用具の生かし方などの基礎的技能を身に付けること
- (3) 先人や先輩、同級生の作品に触れ、そこに表された作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取り、多様な表現のよさを味わい、鑑賞に親しむこと。

4 指導計画と評価計画（8時間扱い）

時間	学習課題・学習内容	美術への関心 ・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	評価方法
1	オリエンテーション (用語の確認とクロッキー、スケッチ、デッサンの作品鑑賞)	学習のねらいがわかり、意欲的に取りくもうとしている			用語がわかる 参考作品のよさを感じる	観察評価 学習シートによる自己評価
2	・鉛筆による線の強弱によるグラデーション ・ペンによる線の粗密によるグラデーション	しっかりと課題に取り組もうとしている		鉛筆による線の強弱によるグラデーションとペンによる線の粗密によるグラデーションが表現できる		観察評価 作品評価 学習シートによる自己評価
3	鉛筆デッサン (球体と選択した果)	既習事項を生かして、しっかりと課		鉛筆による線の強弱によるグラデー	平面に描いたものがなぜ立体に見える	観察評価 作品評価

	実)	題に取り組もうとしている		ションを生かした球体の立体表現ができる	るか、考えを持つことができる	学習シートによる自己評価
4	・画面構成 (モチーフの選択を構成の工夫) ・鉛筆による下描き	自分のイメージに基づいて制作に意欲的に取り組んでいる	自分のイメージを持ち、構図の構想を持つことができる	自分のイメージを持ち、それに向かって構図を画面に描くことができる		観察評価 作品評価 学習シートによる自己評価
5	彩色	作品の自分のイメージに近づくように彩色の努力をしている	全体の彩色の計画 (イメージ) ができる。	おおまかに全体の彩色 (特に明暗) ができる	参考作品からその良さと工夫点を感じ取ることができる	観察評価 作品評価 学習シートによる自己評価
		作品の自分のイメージに近づくように彩色の努力をしている	重色の計画ができる	大まかな彩色の上に重色し、立体感とモチーフの質感を表現できる	参考作品からその良さと工夫点を感じ取ることができる。そこから自分の作品のよさと課題点を探することができる	
		作品完成に向けて、作品が自分のイメージに近づくように彩色の努力をしている		大まかな彩色の上に重色し、立体感とモチーフの質感を表現し、仕上げることができる	参考作品からその良さと工夫点を感じ取ることができる。そこから自分の作品のよさと課題点を探することができる	
⑥ 本時	鑑賞 ・お互いの作品 ・画家の静物画作品	お互いの作品や画家の作品から、そのよさや工夫点を学んだり、味わおうとしている			お互いの作品や画家の作品から、そのよさや工夫点を学んだり、味わったりして、感想を話したり、学習シートにまとめることができる	観察評価 他者評価 学習シートによる自己評価
7						
8						

5 本時について

(1) 目標

自分のイメージに基づき、静物の立体感と質感を色で表すことができる

(2) 本時の構想

本時の学習は、前時に引き続き自分の表現意図 (イメージ) に基づき鉛筆による下描きに彩色し、

水彩絵の具で静物を表していく過程（3時間の彩色計画の2時間目）である。生徒それぞれが本時の学習課題を持ち、スムーズに制作に集中できるように次のような指導過程の工夫をしていく。

ア. 「聴き取る力」を高めるための手立てについて

・・・「ミニ鑑賞タイム」でのキーワード、「感じ」を表す言葉のメモ

イ. 「自分の考え（意図）を明確にする力」を高めるための手立てについて

・・・前時の生徒の「学習シート」のまとめから、制作に必要なアドバイスのポイントを絞り、視覚的な教具を用いて資料提示（ミニ鑑賞タイム）を行い、その後、個人の取り組み目標の設定

ウ. 「確かに伝達するための力」を高めるための手立てについて

（ア）学習シートで振り返る時間の設定→教師による評価と次時へのフィードバック

（イ）自分の表現意図を説明させる場面の設定

（ウ）班での話し合いの結果を発表し、伝達した内容を全体で確認する場の設定

(3) 本時の展開

段階	学習項目	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1. ワンポイント鑑賞コーナー 2. 前時の確認 3. 学習課題の設定	1.(1)鑑賞資料を見ながら教師の話を聴き取り、キーワードをスケッチブックにメモする。 (2)「感じ」について言葉を出し合う→発表する (3)立体的で美しい色彩の鑑賞資料から、作者の工夫を1つ発見する →班毎に発表する 2. 前時のまとめを読み直し、これから学習する内容を確認する 3. 本時の学習課題を考える (学習シートに本時の自分の課題を記入する)	15分	☆美術室に水彩の作品を掲示しておく <input type="checkbox"/> 聴き取る力を高める手立ての工夫 ☆前時の復習をしながら、水彩画には「混色、重色」の技術が不可欠でそこから自分のテーマに迫っていくのだということを確認する ☆班隊形 ★スケッチブック ★実物投影機 ★鑑賞資料 ★「感じ」をあらわす言葉カード ■評価Ⅰ [鑑賞] ★学習シート <input type="checkbox"/> 自分の考えを明確にする手立ての工夫
展開	重色を工夫しながら、モチーフの立体感と質感を表そう			
	4. 学習課題への取り組み	4(1)学習シートに記入した課題に取り組む	30分	★「描画の基本」学習シート ★参考作品 ☆表現力の深まりのための指導項目 ・業間に水をくんでおくこと ・必要な用具と使いやすい配置 ・パレットと絵の具ふきんの持ち方 ・筆洗の使い方 ・筆に含ませた水を絵の具ふきんで調整することの大切さを強調 ・2色重ねるにしても後先で感じが違う事に気付かせる ・混色 ・筆の持ち方（色を塗るというより、置く感じ）と質感を出すための筆の使用法 ・水の量を変えた効果 ・混色と重色で美しいグラデーションを作ることによって立体感を表せること ・影の色を混色で作って立体感を表すこと
終結	5. 学習のまとめ 6. 次時の予告	5. 本時設定した学習課題に対して、進めた内容と、新しく分かったこと、感想、次時の課題をまとめ、発表する	5分	<input type="checkbox"/> 表現したいことを確かに伝える力を高める手立ての工夫 ☆それぞれに発表させることで、自他の相違を感じたり、共感したり、学び合う姿勢をつくる ★学習シート ■評価Ⅱ [意欲、構想、鑑賞] ★今日進めた生徒作品